

新たな高温耐性品種の導入による水稻の生産安定

農業技術センター普及指導部

実施期間: 令和7~11年

課題・目的

■ 県内の令和5年産、6年産米は高温障害により品質低下が著しく、6年産米では減収も認められた。

■ 県内の令和6年産水稻作付品種は‘はるみ’が74%を占めたが、近年育成された品種に比べ高温耐性が劣る。このため、新たな高温耐性品種の導入を図り、作付品種の分散を推進し、県産米の生産安定を図る。

活動内容

■ 新奨励品種候補となっていた‘にじのきらめき’について、施肥量の検討を行うために現地実証ほをJAと連携し設置した。

検討した結果、目標収量 560kg ~ 600kg/10aの施肥量は、基肥窒素量6kg/10a 追肥窒素量3kg/10aであった。

■ ‘にじのきらめき’が新奨励品種に選定されたことを受け、関係機関と連携し、現地実証ほの結果を活用し、栽培暦を作成した。また、講習会を行い、生産者の作付支援を行った。

令和8年度の栽培面積は、種子の供給量から約260haの作付が見込まれる。



今後の展開

■ ‘にじのきらめき’普及及び増産に向けて、窒素成分含有量の高い新肥料の導入を検討する。

■ 多肥栽培で発生しやすい紋枯病対策に向けた支援を行っていく。

■ 令和11年までに作付面積1,000haを目指す。